

「つくってみて、みて、かんがえて（低学年）」

授業者 成城学園初等学校 栗津 謙吾

1. 大会テーマおよび題材について

本題材は既習の素材、技術を活用して、自分の想像したことや表したいことを、表現と鑑賞を行き来しながら見つける活動である。

題材には児童にとって身近なもので、興味関心が高い題材とである「スマートフォン」及び「タブレット」などの形を再考するというテーマを設定した。児童の親世代を30代と仮定したとき、その保有率は90%を超えている（出典 総務省 通信利用動向調査 2016）。このように、身近で憧れの強いテーマなので、「大人が使っているスマホは四角ばかりでつまらない」「一緒に子ども用のスマホを開発しよう」と投げかけて活動を始める。

児童によってスマホやタブレットとの関わり方が違うため、既存の形に寄せてアプリの開発をする児童もいれば、まったく新しい形を見付けようと頭をひねる児童も見られることが想定される。児童一人一人が既習の知識・技能を活用しながら自分の体験や経験を基に、造形活動を自分事として捉え、考えながら製作する姿を大切にしたい。

活動は少人数班で構成し、グループで取り組むことも、グループ内で個々に取り組んでも良いこととする。活動の中盤には、班ごとに「はっけんタイム」と称して他チームの活動を見に行きグループにアイデアを持ち帰ることや、後半で「いいなタイム」と称し、教師が取材、モニターに映して児童の言葉を拾うことで活動の共有を図り、発想を共有し、学びが深まることを期待したい。



2. 本題材のねらい

- 色紙や段ボールを使って、感じたことや想像したことを表現する活動を通して、自分たちの身近にあるスマホやタブレットの形や機能を捉え直している。(知識・技能)
- 友人の発想を共有しながら、表したいことに自分のイメージを持ち、表し方を考える。(思考力・判断力・表現力)
- 感性を働かせ、つくり・つくりかえる活動を通して、自分のイメージを持つことの楽しさ、大切さを感じ、造形活動を自分事としてとらえる。(学びに向かう力・人間性等)

3. 本題材の指導過程(1時間扱)

準備 画用紙、色画用紙、ボール紙、ホイル厚紙、ミラーペーパー、シングル板段ボール、ビッグマックスツイン、クーピーペンシル、クリアファイル、マイタックラベルシール各種、サクラボンドタッチ、はさみ、appleTV、iPad、プロジェクター、HDMI ケーブル

学習活動	指導の内容と留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○スマホやタブレットの形を再考、本時の活動内容を知る。 ○材料と道具を理解、選択して活動をはじめ。 ・グループの役割について知る。 ○素材の組み合わせや形を考えながら活動する。 ○一班ごとに他グループの活動を見学。 はっけんタイム ○完成した子から充電ブースに持ってきて展示、充電中も活動と行き来する。 ○活動後半に、各班で取材(撮影)された作品について発表。 いいなタイム 	<ul style="list-style-type: none"> ○形状や機能について改めて考えたくなるような声掛けから始める。 ○材料や道具を提示。 ・グループのメリットを提案 ○状況を見ながら素材を追加提示して活動を広げる。 ○それぞれの表現の違いを拾い、共有活動の支援をする。 ○充電(展示)エリアの設置と紹介。互いの鑑賞を促す。 ○ipadで撮影しながら、取材。その中で児童の言葉を拾い、各班で発表しやすい空気を作って鑑賞する。モニターに映しながら、必要に応じて児童の言葉を代弁していく。



